



ちいさき ことばたち

Ken Natsui

それでいい、それがいい。



何かに

なろうとする。

そんな自分も、

結構好きだな。

イコール。



いろんなひとが
自分の
素晴らしさに気付いていく

それは、

そのひとを見てる
感じてる自分が
自分の素晴らしさに
気付いていくのと

イコールなんだろう。

すごいなあ。

そう思える、
自分のすごさを
自分が大切にしよう。

いつだって
イコールなんだから。

おやすみ。



おやすみ。

彩。



無造作に
まざっていた色

どうでもいいはずだった。

どうでもいい、
そう思うほど
思えるコトほど
強く惹きつける何かが

いつも、そこにはあった。

触り合う。



言葉の奥に描かれている
目には見えない
ちいさな描写の連続が、

官能的な響きを、
思い出させた。

同じ「言葉」は、
存在しえない。

響き、だから。

触り合うかの様な
響き合いが、

もっとしたい。

繋がっている。



わからない。

から、

わかる景色がみえてくる。

何かに魅了されたとき、

無意識に立ち止まり

ひとつひとつを見入ってしまう様に

もっと

もっと

感じたくなるように。

わからない。

から、

見えてしまう景色を

隅々まで

見尽くしたらいい。

そんな自分を

感じ尽くしたらいい。

見たくなくなるくらいまで

何度も、何度でも。

そんな先に

そんな途中に

あるんだと、思う。

気付くんだと、

思う。

わかる景色と

わからない景色が、

繋がっていることを。

いまの自分が

立っているところを。

これが自分の「好き」なのです。



選択している様で、

選択していない。

選択していない様で、

選択している。

選択しているか、

選択していないか、

どちらでもよくて、

どちらでもよくなくて。

いつだって、自分。

どこまでいっても、自分。

こんな感じが、

こんな自分が、「好き」なのです。

これが自分の「好き」なのです。

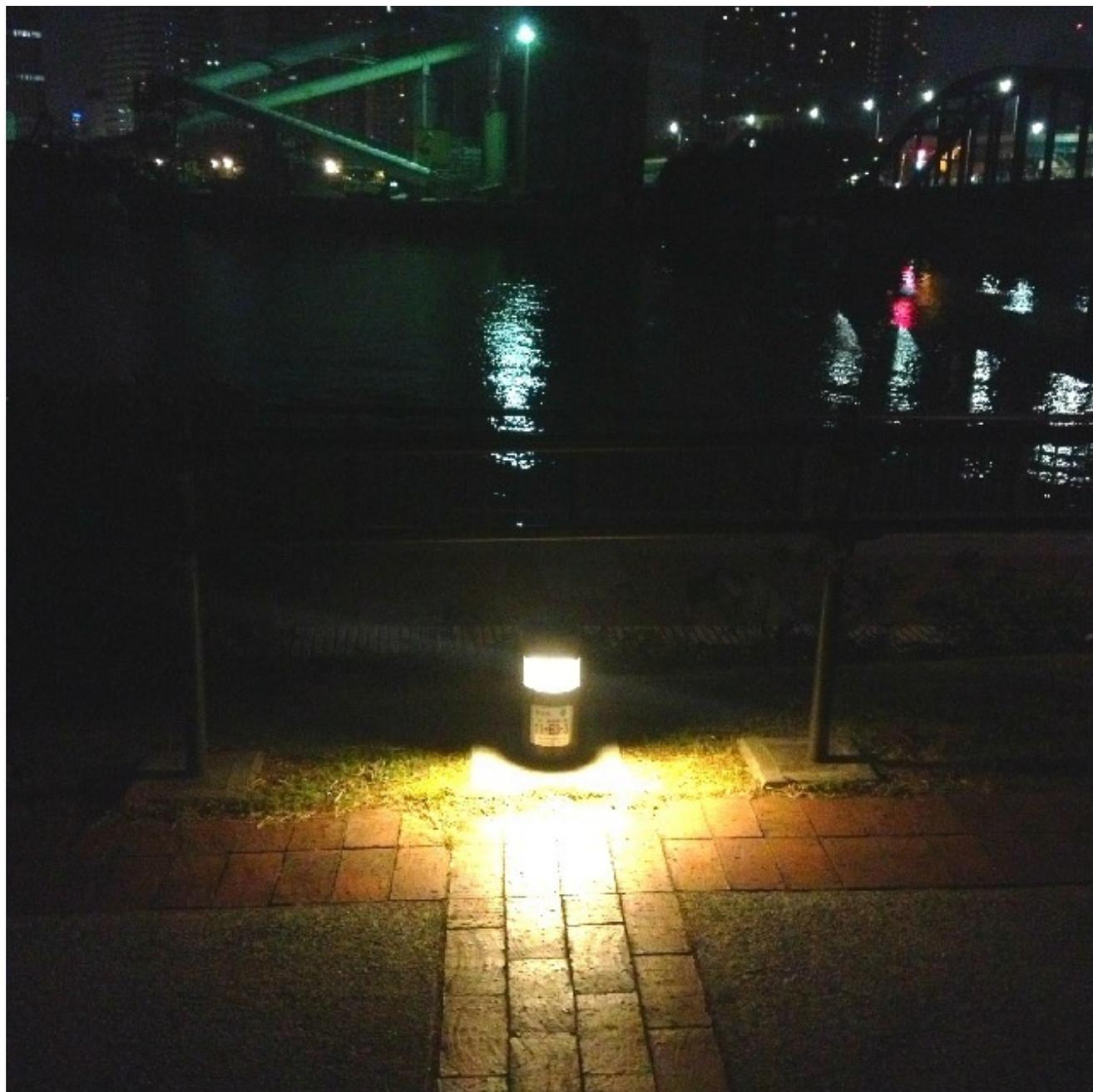


自分だけの言葉がある
誰にでもある
誰のモノでもない、
自分にしかない「言葉」が。

響かせよう
じぶんのこえを

ちいさくてもいいんだから。

いくべき処に、辿り着く



すーっと廻り回って

いくべき処にかえっていく

どこを彷徨ってきたのだろう

疑問が溢れてくる

と。

「ああ、ここだ」

アバウトでありながら

適確に知覚する自分も現れてくる、

ふしぎなものだ

いつだって

いくべき処に辿り着くのだから。

景色がまた、変わりはじめていた。



また景色が

変わりはじめていた。

ここ1ヵ月、

突如とを感じるが

ズズズと重く、確実に差し迫る様に現れていた、

黒さ、汚れ、生々しさ

隠すべき、と認知され自分の中に生息する

その言葉たちに当て嵌まるであろうモノ

それに触れはじめると

同時に自らの世界に現れる

投影である出逢うヒトたちにも

等しく出現し、興味が惹かれ、触れ合っていた

その度、ゾクゾクする魅力

この言葉が

異様に似合う感覚に、浸されていった。

ラクに、イキル。

同じコトバの扉を

壊れる寸前までノックし続け

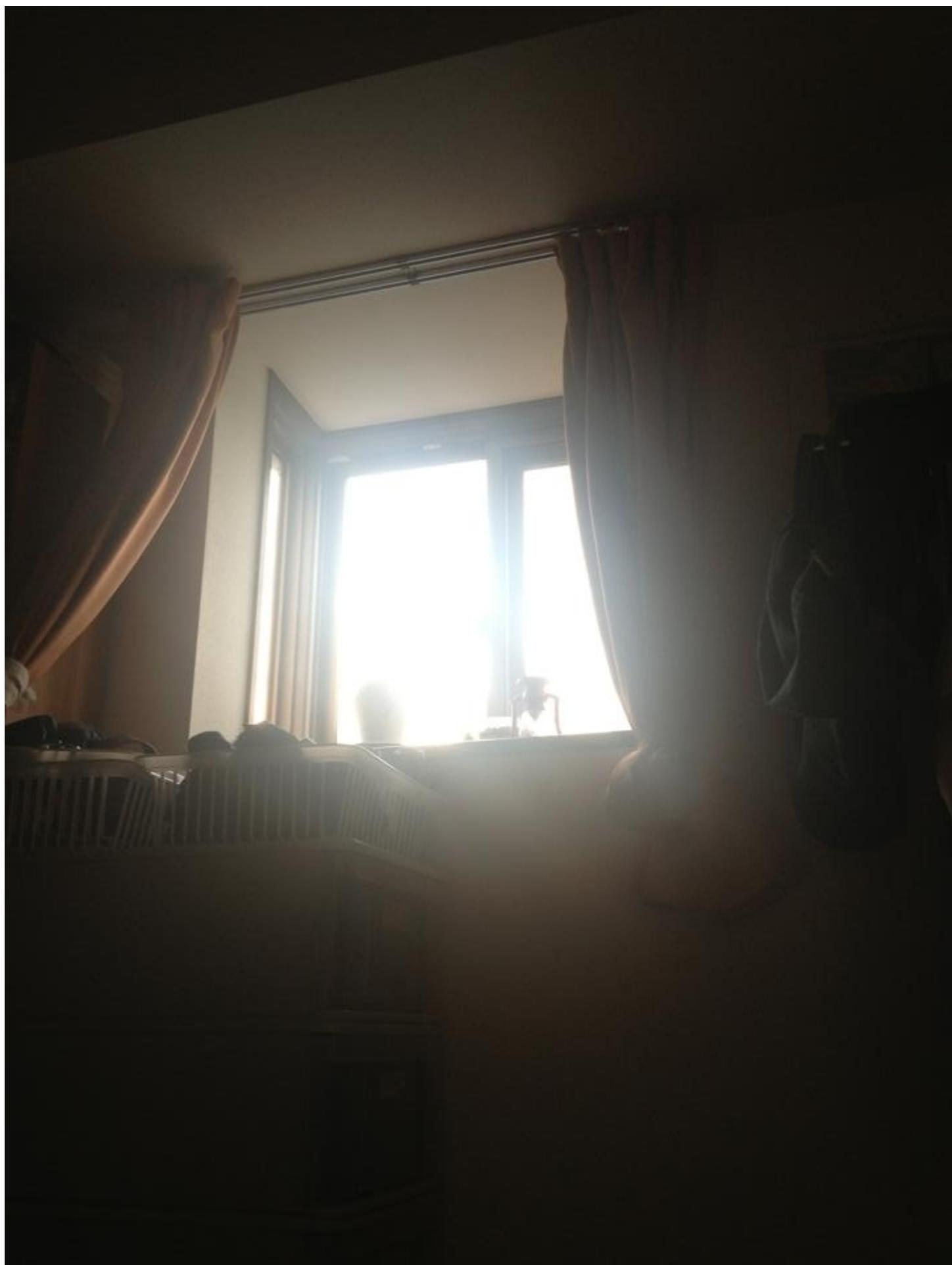
何度となく見てきたはず

が、

寸分の狂いもない程に異なり

何時か描いていた情景が、そこに。

・・・景色がまた、変わりはじめていた。



良き時間だったなあ、と
思い起こす
その時間もまた良き時間になっていく

つながってますなあ。

そう思える人と出逢っている
そう感じれる環境が周りにある

いつもここから
じぶんから、ですね。

ちいさな言葉たち

<http://p.booklog.jp/book/72161>

著者 : Ken

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/kennatsui/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/72161>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/72161>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ